

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

リベラルアーツセンター

教授 井上 美奈子

1. 教育の責任

グローバル化が進み、AI など技術革新が普及、進展し、複雑化、多様化、流動化する社会を生きぬく力が必要であり、その中での大学教育の果たすべき責任は重要である。

文部科学省が大学の国際競争力を強め、教育の英語化を進めて、グローバル人材を育てるという大きな目標を掲げる一方、近年大学生の基礎英語力低下が大きな課題となっている。実用性重視の教育においては、英語教育が読解・文法中心から会話中心に転換してきた。しかしその結果、読解力や教養を身に付けられていない大学生が多くいるのが現状である。リベラルアーツ科目群英語担当者としてこれらの課題に取り組み教育を行う責務を負うと考える。

現在、英語担当者として健康科学部 1 年生全学科、2 年生理学療法学科・人間コミュニケーション学科の必修英語の授業を担当している。ESP (English for Specific Purpose—特定の目的のための英語) を基本にリハビリテーション、カウンセラー等、将来対人サービスに係る学生の英語発信力の獲得を目的に、専門的内容を取りあつかう教材 (大学出版) を使用し授業を行っている。ICT (Information and Communication Technology - 情報通信技術) の活用として自己学習のための大学独自の英語学習サイト立ち上げ補助を行った。また本学では 2008 年度より新入生対象に英語ブレースメントテストを実施しているが試験結果下位約 15% の学生を特別クラスに配置しサポートを行っており、そのクラス担当を初年度より受け持っている。英語教育においては以下を具体的目標としている。

- 英文法の基礎知識の復習、語彙の反復練習により英語が活用できるレベルまで高められ、それがコミュニケーションにおける発信能力につながるようにする。
- 学習者の学びの機会を増やすため CALL (Computer Assisted Language Learning) も活用し英語力とモチベーションを向上させる。
- コミュニケーション力を伸ばすことにより、学びの機会を増やす。
- 専門科目領域にかかわる内容を取り扱うことで学生の英語学習に対する意欲や関心を高める。

また、1, 2, 3 年生対象の選択科目異文化比較論、生命学の授業、人間コミュニケーション学科のプロジェクト科目、コミュニケーション検定取得講座も担当。多様な視点を持ち時代の変化に応じ世界に通用する人材を育てることを目的に授業を行っている。

2023 年度

科目名	時期		受講者
英語 I-1	1 年前期	必修	75 名

英語 I- 2	1 年後期	必修	75 名
英語 II-1 理学	2 年前期	必修	70 名
英語 II-1 人間コミュニケーション	2 年前期	必修	33 名
英語 II-2 理学	2 年後期	必修	70 名
英語 II-2 人間コミュニケーション	2 年後期	必修	33 名
異文化比較論	1.2.3. 前期	選択	57 名
生命学	1.2.3. 後期	選択	20 名
コミュニケーション検定取得講座	2 年後期	選択	未定

2022 年度

科目名	時期		受講者
英語 I-1	1 年前期	必修	75 名
英語 I- 2	1 年後期	必修	75 名
英語 II-1 理学	2 年前期	必修	70 名
英語 II-1 人間コミュニケーション	2 年前期	必修	33 名
英語 II-2 理学	2 年後期	必修	70 名
英語 II-2 人間コミュニケーション	2 年後期	必修	33 名
異文化比較論	1.2.3. 前期	選択	27 名
生命学	1.2.3. 後期	選択	23 名

・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動を行っている。

- 1) 大学コンソーシアムやまなし留学生やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員会 委員
- 2) 河口湖ステラシアター通訳ボランティア
- 3) 国際英語教育関連学会 査読者
- 4) 大学院受験英語・就職関連英語のサポート（個別指導）
- 5) 所属学会
 - ・ TESOL Teachers of English to Speakers of Other Languages, Inc.
 - ・ NYS TESOL-New York State Teachers of English to Speakers of Other Languages
 - ・ Hawaii TESOL- Hawaii State Teachers of English to Speakers of Other Languages
 - ・ JALT The Japan Association for Language Teaching 全国語学教育学会
 - ・ JACET The Japan Association of College English Teachers 大学英語教育学会
 - ・ JASMEE Japan Society for Medical English Education 日本医学英語教育学会

授業外活動と教育との関わり

- 1) このコンテストは、「①留学生の日本語能力の向上」、「②留学生と日本人の交流の機会の提供」、「③学生の企画力・運営力の育成」を目的に 2004 年より開催されている。テーマ設定、要項の作成、協賛・後援の依頼、ポスター・チラシの製作、広報、当日の運営までのすべてを県内の大学生が企画委員となつて行う。山梨県内の大学生であれば誰でも履修できる大学コンソーシアムやまなしの単位互換科目「企画・マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」の授業の一環でもある。本校における授業科目とは異なり現在のところ単位認定が困難であるが将来の可能性を視野に入れ学生が興味を持ち企画実行に関われるよう考えていきたい。
- 2) についても 1) 同様学生が積極的に地域と関わる橋渡しになりたいと考える。
- 3) & 5) 世界各国からの研究から多くを学び自己の研究の参考にもなるため意義があると考えているため、国際的な学会の会員となりコンフェレンスに参加したり、研究発表を行っている。また要請があれば査読委員やコンフェレンスにおけるチェアパーソンの役割を担っている。これらの活動が自己研鑽そして教育の向上につながれば良いと考える。
- 4) 毎年、少数ではあるが大学院受験を希望する学生、英語力を必要とする職業を考える学生の個人指導を行っている。個人ベースで対応し、週に数回のセッションを行っている。対象学生は意欲があり積極的な者が多く、このような学生が今後増えてくれることを望む。

2. 教育の理念・目的

1) 一般教養科目理念・目的

本学の基本理念は「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の 3 つの力を備えた人材を育成することである。その中において一般教養の理念・目標は、学生に学問を通じ、広い知識を身に付けさせるとともに、ものを見る目や自主的・総合的に考え、発想し、自己の道を切り開いていく力の育成を念頭に置く必要がある。複雑化する社会に対応するには、専門領域に関する知見・技術だけでなく、幅広い知識をもち、様々な角度から物事を考えられる柔軟な創造的思考とクリティカルシンキング能力が必要である。また多様な価値観、文化的背景の理解や容認する姿勢を修得し、その中で肯定的な自己アイデンティティを構築することが必要である。一般教養科目（英語・異文化比較論・生命学）はこのような学生の育成に貢献しなければならない。

2) 英語科目理念・目的

英語教育の理念

グローバルで常に変化をとげる社会において、時代に対応した英語力・態度の育成が重要であり手段としての英語力獲得が必要である。本校では ESP (English for Specific Purpose 特定の目的のための英語) の講義により学生が将来の職に就く上で役立つ英語力の育成に努めている。近年大学生の英語力の低下、学習意欲の低下が懸念される中、学ぶことの楽しさ・

達成感を味わえる授業が必要である。まず安定した基礎力を確立し運用力を高め、その知識やスキルを駆使し自分の興味や関心を発展させること、自分の言葉で発信する能力の向上につなげられるようなサポートを行うこと、学習者中心の授業を常に念頭に置くことが重要であると考えている。

3. 教育の方法

・ ESP (English for Specific Purpose 特定の目的のための英語) 授業の実践

ESP 授業では学生の将来の職業に関連する（リハビリテーション、相談援助職）を扱い他の専門科目と密接にかかわる英語語彙や表現を学ぶことで、学生の興味や関心を促すことを目的としている。また‘使える英語’を学ぶこと、発信力を身につけることを目的にした教科書（1年生-全学用・2年生 理学療法学科用 人間コミュニケーション学科用）を作成し使用している。

語彙力の強化（特に ESP 語彙）、ケーススタディや報道記事の活用で現場に即した実践的授業が行われるよう工夫。また教科書内容の最新化を図るために 2 年生の教科書は毎年更新し、タイムリーな話題を取り扱い最新の情報や数値確認を行っている。

・ ICT (Information and Communication Technology - 情報通信技術)を活用した学習

CALL (Computer Assisted Language Learning コンピュータを使った語学学習)を取り入れ学生が自己学習サイトを通して語彙力、コミュニケーション力（話す、聴く）文法力を修得するためのサポートをしている。また英語教員が作成したオリジナルの学習サイトを用意し学生が語彙力、文章作成力等の練習ができるようになっている。CALL や学習サイトでは学生が自己のペース、レベルに合わせて学習を勧められ、何度も繰り返し課題に取り組むことができる。またこれらの学習を通し学習に取り組む意欲やコンスタントに勉強する態度を身につけることができればよいと感じる。

・ Teams を活用した授業の工夫

コロナ禍において開始された Teams の授業は現在も継続されているものもある。Teams の授業においてはパワーポイントの活用、Channel を通してのグループワーク、チャットでの質疑応答、課題機能を使用しリアクションペーパー、宿題提出、アンケート、語彙力テスト等を行っている。即座に学生の状況把握ができ、個々に応じたフレキシブルな対応が可能である。提出物にはコメントを添付するなど得点外のフィードバックも行っている。

グループ活動後に設ける発表の場では協力して情報を集め、まとめる作業、発表の準備を行い決められた時間で他者に伝える力や多様な視点を学ぶことを目的としている。また、授業で用いたパワーポイントや関連資料をウェブ上にあげ学生が資料を見直したり関連するサイトを検索・閲覧できるようにしている。

・学生の自発性を促す授業

授業ではグループやペアアクティビティを多く取り入れ学生が協力しながら課題に取り組むことにより、協働力、リーダーシップ、責任感、モチベーション、達成感の育成を図っている。Study log 自己記載を導入し 自己の学習状況、得点、課題を管理、学習に対する責任感が意識できるよう工夫している。前述したオンラインの自己学習サイトや CALL で自主的に学習に取り組む意欲を養う。また得点の可視化を行いどの項目で何点取れているかがわかるようにし、自分の弱点や強みを理解する足りないところを補う努力ができるようにしている。またオフィスアワー以外でもオンデマンドで個別指導を行っている。

・学習者の background information の把握

一年生の最初に行うプレースメントテスト、授業開始後の語彙力の測定テスト、学期の前後に行う単語修得達成度測定テストを行いそのデータを通し学生の習熟度状況の把握。また到達度の低い学生へのサポートが適宜できるよう努めている。また成績はクイズ、スピーチ、ライティング、グループ活動参加態度、期末の総合評価で学生の修得度を様々な角度からみて個々の学習者の状況の把握をしている。

・特別クラス、個人的補講

毎年 4 月に行われる新入生対象プレースメントテストの結果を踏まえ習熟度の低い学生を特別クラスに集め授業を行っている。他クラスの学生との公平性を維持するためクイズ、テスト、成績配分もすべて同様に行うため、特別なサポートが必要となるクラスである。多くのハンドアウトを配布、パワーポイント資料の充実（聞く力、語彙力が弱いいためすべての英語を文字表記することが必要と考えられるため）、学習内容の整理や修得状態の検証を常時行っている。学生の苦手意識の克服、授業が楽しいと思える工夫が必要となるクラスである。

・基礎学習力と知識習得の確立

英語では語彙力が基礎となるため、授業では語彙の強化に努めている。授業の最初にはその Unit で使用される単語リストの作成、重要語彙を使ったエクササイズを行う。繰り返しの使用、英単語を英語で表現、例題や文献読解で実際どのように使われるかを学ぶ。専門用語ボキャブラリーサイズテストを年 2 回行い語彙力の伸びを査定、また学期中に使われた語彙を利用してボキャブラリーテストを学期の前後で行い語彙が習得できているか確認している。英文法は Unit ごとに取り入れ中学、高校で学習する文法の復習を行っている。学習の定着を図るため学期中に小テストを頻繁に行う。各テスト（期末・小テスト）の前にはレビューセッションで重要事項などのポイントを確認、小テストはフィードバックを行っている。またスピーキング、ライティングの基礎を修得する時間も授業に取り入れている。

4. 教育の成果・評価

本学は学期終了ごとに FD 委員会により授業評価アンケートが Teams を使い実施されている。集計結果や学生のコメントを活用して、実際に得られている効果や授業内容の反省点の振り返り、改善すべき内容について検討する機会が与えられ、次年度のシラバスや時学期からの授業教材の選択や授業内容、教授方法に生かすことができる。またこの評価アンケートではすべての科目において 4.5 前後で概ね好評価を得ている。成績不良による単位未習得学生がゼロに近い。実施している語彙力テストが向上し、また語彙の強化により読解力に伸びがみられる。

英語 I-1 I-2

2021 年度、2022 年度とも評価アンケートは 4.5 以上である。

「わかりやすい」「説明が丁寧」「楽しかった」「配布プリントが役に立った」等ポジティブなコメントが多く、授業準備に時間を費やした甲斐があったと感じる。初めての ESP 授業に対しても興味を持つ学生のコメントがあった。その一方期末テストの結果を見ると学生の習熟度にかかなりの差がありこれをどう補っていくかが課題である。また再テスト受験者は特別クラスに属していることが多く、学習に対する意欲の維持や得点獲得につながる効果的勉強法などを教えていくことが必要であると感じる。しかし特別クラスの学生からは「英語に対する嫌悪感がなくなった」、「怖くなくなった」「楽しかった」等のコメントを貰っている。

英語 II-1 II-2 (理学療法学科)

2021 年度、2022 年度とも評価アンケートは 4.4。ESP は理学療法が使われているため、語彙の難度がかなり高くなり読解も高度なものとなる。2021 年度は TEAMS による授業であったが「説明が丁寧」「わかりやすい」「しっかり学べた」等のコメントを貰っている。一方でオンラインによるグループアクティビティにおいては積極的に参加しない、人任せにする学生に対する不満もみられた。2022 年度は対面で授業がおこなわれた。パワーポイントの速度が速すぎる、内容が難しいという意見も出された。視覚、聴覚で様々な語彙、表現方法を学んでほしいため情報量が過多になる傾向があり、まとめの工夫が必要であると感じる。ケーススタディーを授業に組み込んでいるので専門科目で得た知識を応用できるとのコメントも貰っている。

英語 II-1 II-2 (福祉心理学科・人間コミュニケーション学科)

2021 年度、2022 年度評価アンケートは 4.3 と 4.5 である。

2021 年度前期は TEAMS でのオンライン講義で行われた。グループワークが楽しい学生がいる一方個人ワークの方が良いとコメントする学生もいる。またスライドの速度が速すぎるとの指摘を受けた。2021 年後期から対面となった。学生は学習内容が自分た

ちの専門と合致するため、取り組みやすい、頑張りたいと意欲を示している。しかし iPS を含む基礎医学内容は難しい、必要ないなどのコメントがあったため、この点を今後考慮に入りたい。CALL を取り入れた授業では授業中は楽しんで取り組んでいたが、それを授業外の時間の自己学習に繋がる工夫とその確認が必要であると感じる。

5. 今後の目標

短期目標：

- 授業教材・内容の改善
 - ◇ 授業評価の内容を吟味し必要な内容改善を実行する。
 - ◇ ESL 語彙と教授内容の語彙の整合性の検討する。
 - ◇ ICT 教育の充実を図る。
 - ◇ 毎年の教科書改訂を行い内容や数値等アップデートを図り最新のあるいはその状況に適合したものにする。
 - ◇ ケーススタディの題材の探求と精査を行う。
- 習熟度の低い学生のより充実したサポート
 - ◇ 補講・個別サポートを行う。
- 自己研鑽
 - ◇ 英語関連研修会に参加・研究発表を行う。
 - ◇ 研究のためのデータ収集を行い論文作成に取り組む。
 - ◇ 査読委員活動のより積極的な参加に努める。
 - ◇ 英語レッスンを受講する。

長期目標：

- 学生の基礎学力を養うためのリベラルアーツ科目の充実
 - ◇ 英語能力・コミュニケーション力・表現力・発信力をつけるためにはどのような教育を行うかの模索・検討する。
 - ◇ リベラルアーツ科目担当者として学生の主体性や実行力を高め、柔軟性・判断力・論理的思考・協調性を伸ばす指導を試みる。
 - ◇ 時代に対応できる専門家となる学生を養成することを目指す。
- 語彙力テストの精査とより有益な利用法の検討
- オンデマンドの授業作成の検討
- 定年退職に向けて業務の円滑な引き継ぎ